

7月3日に静岡県熱海市で大規模な山崩れが起き、土砂災害の映像を見た方も多いのではないのでしょうか。一週間後の7月10日には九州で大雨特別警報が発せられ、昨年の熊本県の球磨川が氾濫するなど九州を中心とした「令和2年7月豪雨」を思い出した方もいると思います。いずれも7月半年の一月分以上の雨が、1日から数日のように降るような大雨となりました。毎年のように大雨で、気象による大きな災害が起きていて、いつ自分が避難する立場になるかわかりません。自治体から発令される避難情報も今年から一部変わりました。警戒レベル1と2は今までと変わりませんが、警戒レベル3では「高齢者等避難」、警戒レベル4では「全員避難」となりました。ここまで全ての人を避難を終わらせるようにするための情報になります。警戒レベル5になると、すでに災害が発生している可能性が極めて高い状況になっています。避難することが困難な場合には、今いる建物より高い階へ移動し、山や崖の斜面に面している所では、斜面の反対側に移るなどの少しでも安全な場所へ避難することが大切になります。また、新しい情報として線状降水帯が発生したときに「顕著な大雨に関する情報」が発表されるようになりました。線状降水

帯は最近耳にする言葉ですが、次々と発生する発達した雨雲が、列をなして数時間にわたり、ほぼ同じ場所にかかり続けるような降水帯のことで。発表基準は、降水域が線状であることや、前3時間積算降水量最大値が150mm以上であること、災害のおそれがあることなどです。この情報は予測ではないため、発表されたときにはすでに線状降水帯が発生し、災害が起きている可能性があるため注意が必要です。また、これらの情報が出ていない時でも災害が起ることがあります。災害の予兆を見逃さずに、早めに避難することが大切です。土砂災害の予兆としては、普段は道首やにおいがあることなどが挙げられます。これらが数日かけて台風が多い時期になり、災害に対する油断が出来ません。今一度、住んでいる地域のハザードマップや非常食などの避難用品の確認をしておきましょう。また、災害が起きる時間帯が日中か夜によっても避難方法や避難経路が変わることもあります。いろいろな状況を想定しながら、ご家族で話し合い、実際に避難経路を辿ってみることも大切なことです。

日本気象協会 萩 良幸

役員

団体役員

特別顧問	丹羽 晟 (日本空港ビルデング顧問)	本保 芳明 (国連観光機関 駐日事務所代表)	大島 慎子 (国立大法学会気候技術学監事)
理事長	寺前秀一 (人流観光研究所長)	副理事長	岡村 進 (小田急トータルビルズ)
事務局長	杉 行夫 (理事)		
理事	須田 寛 (東海旅客鉄道顧問)	分家静男 (元射水市長)	堤り (元宮崎放送)
	近藤節夫 (日本ベンチャー協会)	長尾亜夫 (西日本鉄道相談役)	澤田利松 (松蔭大学学長補佐)
	今井 智康 (元JTBグループ代表取締役)	星月義人 (気候学院大学学長)	高橋俊朗 (元小田急トラストシステム取締役)
	片桐保馬 (元JTB国会担当、化審和弘公認会計事務所相談役)	田坂友隆 (NHKインターナショナル専門委員)	
	山本裕司 (花園神社司宮)	香掛博光 (元旅行誌編集長)	
団体役員	アイエスカンパニー 一般財団法人NHK インターナショナル 株式会社えんいれいしゃ 小田急電鉄株式会社 社団法人くらしのリサーチセンター 株式会社グループキャブ 株式会社サンサタパジャマパビリマツド 三井旅行有価会社 住友電設株式会社 大成建設株式会社 大成設備株式会社 大成有価不動産株式会社 株式会社丹舟社 第一交通産業株式会社 株式会社ダイエーコンサルティング 東海旅客鉄道株式会社 財団法人東京観光財団 西日本鉄道株式会社 公益社団法人日本観光振興協会中部支部 日本空港ビルデング株式会社 専門学校日本ホテルスクール 広島電鉄株式会社 福岡国際空港株式会社 北海道空港株式会社 株式会社ホテル小田急 ホテルロボリタン		

**編集後記:** 梅雨が明け、真夏に空から強い日が降り始めた7月23日、2020東京オリンピックの開会式が夜8時から始まった。この日の真夜中、航空自衛隊飛行員インパルスにより、世界の平和のシンボル、五色の輪が競技場上をいっしょに美しく描かれたが、会場は無観客で、競技場周辺の道に大勢の見物人が群がっていたという、前代未聞の奇妙な光景が広がり続けた。「206ヶ国、地域」からの参加。開会式の各国選手団の登場は、「日本語」が標準として行われた。最初の「東洋」は、開催国「日本」が最後のものは恒例のことである。初めに「アイスランド」などの発音の国名は「カカカ」だが、中には「漢字」のものもあった。具体的には英国、北マケドニア、赤道ギニア、大韓民国、中央アジア、中華人民共和国、ドミニカ共和国、米領サモア、バーレーン諸島、南アフリカ、スウェーデン、日本である。最初「ボジジャ」の次は「難民選手団」ROCOであった。言葉慣れないROCOとは、ドーピング問題「RO」として参加出来なかったロシア・オリンピック委員会のことだった。2028年開催国(アメリカ合衆国)、2032年開催国(フランス)は今後の「日本」の主要であり、これも毎回恒例のこと。無観客のためか、高揚感や華やかさには欠けていたが、いろいろな工夫された開会式であった。しかし、今回のオリンピックはパンデミックという困難の中で、「開催あり」という強い商業主義の匂いが漂う、懐かしい開催になったことは残念であり、多くの課題を残した。とりわけ、開催を楽しみながらという訪日外国人観光客や世界中の観光関係者が報われたこととは、オリンピックのGo To JAPANキャンペーン(旅行代金の一部を還元)の実施と、日本政府に提案してはどうだろうと思う次第である。(杉)

特許非営利活動法人 (NPO) **JAPAN NOW** 観光情報協会

東京都港区麻布1-27-3  
TEL 06-0044  
電話 03(5989) 0902  
FAX 03(5989) 0903  
E-mail info@japannow.org  
https://www.japannow.org/  
発行人: 寺前 秀一  
編集長: 杉 行夫  
主な配布先: 会員、中央官庁、地方自治体、民間企業、マスコミなど

NPO法人 **JAPAN NOW** 観光情報協会  
138 Non-Profit Organization JAPAN NOW Tourism Information Association.  
東京都知事が認証した「都市・環境・観光NPO」が掲げる隔月刊情報誌  
第138号 発行日 2021年 8月 15日

P1 - JAPAN NOW 誌の精神 / 新刊本紹介  
P2 - 鉄道車両が文化財( COLUMN)  
P3 - セミナー講演録 第169回  
P4 - NEW SPOT of  
P5 - 旅はいつつ...  
P6 - 五輪に思う / NPOから伝来  
P7 - アメリカにほれ住 / セミナー報告 第170回  
P8 - 気象と天気 / 編集後記

【世界遺産】「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島」(世界遺産登録年:2021年)

**JAPAN NOW 誌の精神**

**JAPAN NOW 観光情報協会**  
副理事長 岡村 進

本会の初代名誉会長を務められた、故・今川昌平映画監督はカンヌ国際映画祭において、「楡山節考」"うなぎ"二度にわたり、ハルムドールに輝いた日本映画界の巨匠でした。

1985年、監督は日本初のホテル観光情報誌「JAPAN NOW(英文対訳)」の創刊にあたって、「この人はまずく人間」を中心に書かれるべきだと思ふ。我々は己の生き方について、理屈があるなしにかかわらず、くおもしろいからやっている」人々に登場願うこととしたと述べている。JAPAN NOWは長年にわたり、日本の文化・風俗・宗教などの観光、とりわけ古典芸能を支えるくおもしろいからやっている」人々に光をあて、独特の臨場感、人間感情(五感)、情念、絆、ストーリー性を醸し出す編集で、訪日外国人をはじめ多くの宿泊客を魅了し、毎年、300軒の著名ホテル・旅館に9万部が頒布されてきました。

監督は1986年、専修学校・日本映画学校(現日本映画大学)を小田急の新百合ヶ丘間で開校し、生徒に「人間とはなんとおもしろいものか、人間観察が好きなぞ」と教えていました。

監督はくおもしろいからやっている」映画人の育成に務めることも、映像現場の一次情報を丁寧に収集し、情報化するということ、情報における一次産業を大切にした人でした。

昨今は、新聞記者が現場を取材せず、ネット情報を組み合わせただけの記事を書いていると問題視されています。これはデジタル化の急速な進展により、人間の五感が軽視され、「情報化」の作業を蔑ろにして、「情報処理」に偏重している、社会が空虚・無味乾燥化して「空気」が人々を動かしている背景もあ

ると思われまふ。本協会の名称・ジャンパノウは今村監督から無償で使用許可をいただいたもので。願わくは、本協会の雑誌は、観光がくおもしろいからやっている」市井の人々により多くのご登場いただき、監督の精神を受け継ぎ、観光の一次情報を大切にしたい、人間の情念、ストーリー性(ロマン)に満ちた紙面づくりに邁進すべきであると思うのです。

**書評**

時刻表は様々なことを語る

長谷川郁夫 17代 当主 長谷川友友 親  
『鉄道と地図』(鉄缶プレス)  
須田寛、野村邦夫 共著(交通新聞社)



時刻表と地図が、この鉄道の本の  
JN協会理事・京葉線副  
須田寛氏と元国土交通  
局長で現任日本国鉄セン  
ター副総務 村邦夫氏の  
共著。交通新聞社発行  
定価 1980 円

大学生のご福岡県門司港駅の近くに住んでいる。父親が転勤先であったので、宝塚の近くや小樽に移ったこともあった。門司では、家から上のほうであったので、家から少し上のほうに登ると門司港までくみえた。そんなこともあって、『鉄道と地図』の地形部門トンネルを見るの項をみてみる。わたしが住んでいたころは、1942年に開通した鉄道主体の関門トンネルしかなかったが、現在は1975年開通の山陽新幹線海底下トンネルができています。ここには高速道路の道路橋に国道2号の道路トンネルもある。海の底と海の下の両方に新しい道がつくられたことがわかる。この地は平安の昔は、源氏と平家が死闘を繰り広げた場所である。かつては時刻表の最初のパージになっていたという鉄道地図を頼りに目的地にゆつめな交通手段をさぐった。その鉄道地図の歴史や読み方をこの本は丁寧に教えてくれる。また、「日本の鉄道のおゆめ」の項目では、明治から令和までの鉄道の歴史が、懐かしい機関車の写真なども添えられて、解説されている。

## 鉄道車両は動く「文化財」⑥

### 「気動車」の元祖「蒸気動車ホジ 6014」

JR東海 顧問 須田 寛



上下写真:ホジ 6014



その名の通り「蒸気」で動く客車」のことで。明治39年「鉄道国有法」が成立し、日本全国の鉄道は「一地方ノ用ニ供スルモノヲ除キ」すべて国営が経営することになりました。それまで日本の鉄道は既に数千軒の路線が完成していましたが、約半分は国有官営の鉄道—官鉄、残り半分は民間会社

が建設経営する民鉄—いわゆる私鉄に二分されていました。鉄道路線はつながっていても経営主体が異なるため通車列車の運行等全体としての鉄道システムが円滑に機能していくことに問題があったことから日露戦争後の鉄道国有法制定につながったのです。

明治41年頃まで「一地方の用に供する」大都市圏の鉄道(今日の大手私鉄の前身)と地方ローカル鉄道を除いて17社の鉄道が断片に買収され国鉄となりました。そのなかには当然客貨の輸送量が少ないローカル客車を多く含んでいたのです。当時の蒸気機関車(SL)が客車多貨車を牽引して走っている「汽車」は、中心でいた。汽車の輸送力は大きいのですが、終点で機関車の付替えと方向転換が必要です。このため小単位の

列車には無駄が多いのです。買収の結果ローカル路線を多数かかえることになった国鉄も輸送量の少ない多くの支線を効率的に経営するため外国の例を参考に客車の一部に小型の蒸気機関(ポイラー)をはじめ積み機軸と客車を一体化して1両で運行する蒸気動車を導入しました。

オーストリアから明治41年に7両の蒸気動車を輸入、国鉄の各地が、近江、河南、博多湾の各鉄道会社で使用開始されました。客車の片端にポイラーがあり、ここで機関助士が石炭をくべて蒸気を生じさせ、パイプを通じて車輪に直結したシリンダー(汽筒)に送って車輪を回転させます。運転席はポイラー横にありますが、ポイラーと反対側の車端にも運転席がありワイヤを



写真:須田寛氏提供

外して蒸気の投入量を減減したりして反対方向へそのまま運転できるのが機関車のように終点での転向の必要がなくなりました。又「一両の単行運転が原則」ですから地方の小単位の輸送を効率的に行うことができます。今当分の蒸気動車の原型がそのままで残る JR 東海のリニア鉄道館展示のホジ 6014 号車(大正2年汽車会社製造)が「機関室と客室を一車両に合造し小単位の輸送効率を高めその後の気動車の原形ともな」として国の重要文化財に指定されました。なお 6014 号車は製造後官鉄関西線(関西地区)で使用されたあと、筑豊地区の配置を経て、名古屋鉄道が買収しましたが戦中戦後の混乱期でほとんど使われなまま保管されて、その後同社の「明治村」で展示されていました。その後旧国鉄が貴重記念物として譲渡し再整備の後現在は名古屋の「リニア鉄道館」で展示されています。(注「ホジ」の「ホ」は車両の通車区分を示す記号)SLは自動車両を示す記号(現在の記号は使われていない) 写真提供:交通新聞社

## アメリカに話 74 「何故、真珠湾攻撃は」

### 騙し討ちに「なったのか？」



真珠湾攻撃直前に14日閣議で最終の決断をめぐり大隈と鳩山(1941年11月17日) 写真: wikipedia 1941年11月17日 http://www.jacar.gov.au/prich/jppop/pop\_29.html

元JTB取締役 北村 嵩

昭和16年12月7日ハワイ時間の未明に日本海軍が、オアフ島真珠湾にあった米国海軍の太平洋艦隊と基地を攻撃し大打撃を与えた。この攻撃が日本からの外交断絶の通告よりもはるかに前で、日本は通告なしの先制攻撃「騙し討ち」を行ったと、ダークティ—ジャップと罵られ、米国民の怒りを買い、米国民の意を高揚させた。

当時の駐米大使は野村吉三郎であった。野村は海軍出身の国際派であり、豊富な国際会議の経験があり広い人脈が買われての赴任であった。この頃の外交大臣は松岡洋右による任命である。松岡は外務省側の意向を無視して野村には陸軍の建川美次、駐米大使には大島浩を据え異例の軍人事を敢行した。出先の外交官たちは面白くなく、非協力者もいたようだ。通告の遅れは大使館内での暗号解読、タイプ打ちの時間が必要以上に伸びたからと言われている。大使館では3人のアメリカ人タイピストが働いていたが、本からこの電文のタイプは—等書記官のみが行うこと命じられたが、担当の書記官がタイプが上手でもなく遅くだった。外務省から「断交通告の文章は、日本時間の6日午後8時半から7日の午後4時(ハワイ時間6日午前1時半—6日午後9時)までに13通に分割して送信されている。

## 観光立国セミナー 第17回 7月9日 会場:MFRP渋谷区立館

### フリーラン、ライター 北出 明

私が初めて「観光立国セミナー」で講演させてもらったのは、2012年2月10日の第74回の時であるから、足かけ10年になる。その時のタイトルは「杉原千蔵のユダヤ難民を支えた日本人々々—インバウンドの原点を探る—」というものだった。その後も2度、機会を与えられ、今回は実に4回目となった。

さて、振り返ってみると、杉原のテーマは一貫して、杉原千蔵に関連する「命のビザ」が講演となっている。そのため、私がいかに杉原千蔵の研究者であるかのように受け取られることがあり、面映ゆくと戸惑いを感じることもしばしばである。率直に言って、最近の私はむしろ杉原千蔵以外にもユダヤ難民に救いの手を差し伸べた人々がいかに多くに光を当てるべきだと主張している。

そこで、今回はオランダとオランダの外交官が果たした役割を紹介すべく、演題のサブタイトルを「知られざる日蘭波

電文を外交文書に作り替えるには充分な時間の余裕があった。大使館内の電信線には解読電報は、迅速に行われ、書記官室に届けられたが、書記官たちは仲間の送付会があり、外出しており、翌朝まで文書作成作業は行われていなかった。7日午前中から本省から断交通告文書は7日午後1時に手交するよう指定する電報が届き、直ちにハル国務長官と一時会見の約束を取り付けた。しかし、文書作成作業の遅れ、会見を1時45分まで延期させたのを責め、実際に野村大使と米特命大使が国務省に到着したのは2時5分、控室で待たされて、ハル国務長官に会見したのは2時20分まで待たされた。

この時期には、日本の外務省と大使館との暗号電文は全てアメリカ情報機関に解読されたおり、アメリカの人材派遣会社から派遣された3人のアメリカ人タイピストはスパイではないかなどは言われていた。情報がアメリカ側に漏れていた可能性もある。

通告遅れの原因は  
1) 大使館内部の人間関係の悪さ—取り分け軍出身の大使と外務省派遣の書記官  
2) 事務連絡の不手際—電信通と書記官

3) 緊張感の欠如—断交通告には開戦には触れていないが重要な電報だと解ったはず  
これらが積み重なり、日本は卑怯な国、ダークティ—ジャップと呼ばれることになった。

三國連携)とした。「彼」はポーランドの漢字表記である「波蘭」の略で、「日独伊三國同盟」をもじったもの。

まず、二人のオランダの外交官。最初は、杉原千蔵が日本への通過ビザを出すことを可能にした「キュラソー・ビザ」を発給したヤン・ツバルデンダグ領事(杉原千蔵と同じく、リトアニアのオカウスに駐在)。二人目は、当時神戸のオランダ領事館に勤務していたデ・フォーフ領事。彼は、ウラゴストクから敦賀に到着したユダヤ難民74名が暮らさず不備のため上陸できなかった際、入国申請書を出して彼の日本人入国を助けたこと知られている。

次に、ポーランドの外交官として、初代駐日大使を務めたデグデュー・ロメル。難民たちの多くはポーランドから逃げたユダヤ人であり、当然のことながらポーランド国籍であった。「ユダヤ人であるとならうとポーランド国民であるに、彼らを保護するのは大使である私の使命」としてロメルは、次の行き先へへのビザをもっていなかった多数の難民に必要な数のビザの確保に尽力した。

この講演会においては、オランダ大使館のオペレーター公使によるビデオ・メッセージを披露したほか、ポーランド広報文化センターのマリア・ジラフスカ所長の参加を得、直接スピーチを聞くことができたのは幸いです。

## COLUMN 儲けものの「物々交換」

海外渡航が自由化されてからしばらくの間、海外旅行の土産品はウイスキーのジョニーウォーカー・黒ラベル(ジョニー黒)が断片的に人気No.1だった。ウイスキー3本と紙巻タバコ200本を1個単位に免税品として持ち込むことができ、海外へ出かけるに誰もが欲まてそれら免税品を買い求めたのである。友人の中には今年海外へ出かけたらジョニー黒を頼むという、厚かましい輩が随分いた。

今から半世紀ほど昔、アフリカの地でジョニー黒1本と引き換えに、豪華な野生生動物の毛皮を手に入れたことがある。ナイル川の支流、白ナイルと青ナイルが合流し飛沫と虹の中に夢幻的な魅力を演出する、スーダンの首都ルワームへ出かけた時のことである。安宿のロビーで飲みかけのジョニー黒をバッグから取り出したところ、ひとりの地元の若者が懐中時計にひそめて来て、そのジョニー黒をこれと交換してくれないかと唐突に声をかけられた。ほればれるほど見事な木彫りの民芸品だったので、即座に「OK」に応じた。しばらく話し込んでいるうちに、彼がまだ栓を開

けてないジョニー黒があれば、誰もが欲しがるとチータの毛皮と交換しても好いと囁いた。しばらくして若者は豪華なチータの毛皮を抱えて戻ってきた。直ぐに部屋へ取返し、まだ開栓していないジョニー黒をチータの毛皮と交換した。

今では野生動物の保護法上、チータなど野生動物の無許可の捕獲は認められていない上に、絶滅危惧種の身体の一部などを国外へ持ち出すことは固く禁じられている。当時はまだ保護法もなく万事に手緩い時代で、「物々交換」によるチータの毛皮も問題なく持ち出し、帰国時に空港検閲で留められることもなかった。あの「物々交換」によって豪華なチータの毛皮を手に入れて大儲けしたと得意満面だった。その一方で開栓していないウイスキーも、現地の若者にとっては儲けものだったようで、まさに「ウィンウイン」の取引になっていた。異民族間対立が激しいスーダンでは、10年前に南スーダンが分離独立したが、その後も部族同士の諍いが絶えない。ナイル川合流地帯の魅力的な観光スポットは、現在どうなっているだろうか?あの毛皮を交換してくれた若者は、あの後ジョニー黒をどうしたのだろうか?ふっと想い出すことがある。 エッセイスト 近藤 節夫



## コロナ禍に一人旅行人の人流観光ビジネス

人流観光研究所長 寺前 秀一

コロナ禍でも、世界経済はそれほど落ち込んでいないようだ。PAYPALによると、世界のオンライン小売売上高は前年の3.35兆ドルから4.28兆ドルへと100兆円増し、21年には4.89兆ドルまで伸びて試している。日本国の2020年度税収も60兆円強と過去最高となった。長引く新型コロナウイルスの影響は軽微にとどまっている。景気回復で先行する海外経済を背景に企業業績はさほど落ち込まず、消費、所得税収もそれぞれ想定を上回った。

日本のGDPは昨年第2四半期28%減、第3四半期24%増と上下した。政府の唐突な宣言による学級閉鎖等のショックが影響したものの、世間はすぐに対策を立てて元に戻り、人流観光だけが元に戻らなかった。総務省のサービス産業動向調査等で今年1～4月のデータを調べると、航空運送、旅行業、宿泊業等が下位にある。その背景にはインバウンド需要がほぼ消滅している事情がある。19年の訪日外国人消費は4.8兆円円で旅行消費額の17%を占めていたが、コロナによってほぼゼロに落ち込んだ。その4分の3は中国、香港、台湾、韓国であるから、真剣に北緯の国際観光振興をはかるべきだが、メデアには相変わらず嫌々、嫌韓報道に明け暮れている。観光関連産業の従業者数は約900万人、単純計算では、その17%に相当する約150万人が過剰労働となる。非労働者も耐えられずに経営破綻すれば、この150万人が失業するが、非労働力化してしまう。

今の首相は役人を首切る程度で、その権限は思われているほど強くない。前首相は昨年4月にコロナ患者用の病床を5万床にすると発言したが、今年6月になっても3.6万床まで未達である。社会にペダはあるが、振り向ける権限がないのである。逆にPCR検査は、権限はあるが政府に意欲と能力がなかった。その影響が人流観光ビジネスに直接現れている。人流観光ビジネス関係者は政策の遅れ等の問題を認識せず、GOTOの再開を期待するばかりではいけない。

PCR検査や隔離権限は保健所の設置者(都道府県、政令市、中核市、特別区等)にあり、地域的に狭い単位である。都道府県以外には医療体系に責任がない限り、それも無い。人流観光業界はどもりよく集中公衆衛生施設の設置を要望すべきであり、旅館業法の所管をもより集中させるべきであらう。中国、イタリア等と対岸の火事としてみただから、入国禁止措置は、出入国管理法の規定を実施するまで時間がかかった。飲食店には休業や時間短縮を出していただき、状況が少し改善するとGOTOトラベルキャンペーンを始めたところのチゲハグ感への批判が巻き上がった。東京五輪も同様なのであろう。責任ある者が、希望観測的な発言はなくても、現実的な予測や中長期的な見通しが示されていない。PCR検査と水際人流規制を徹底すれば、イラストル等のように「ゼロコロナ」に近い状況。厚生労働省は、初期の頃大規模なPCR検査にきわめて否定的であり、日本社会礼儀者達を中心に中心が雷同の意見が拡散した。しかし欧米での成功報告が報道されムードが変化した。今では民間PCR無料検査まで普及している。ウチ行政の遅延は、子宮頸がんワクチン等これまでの情報公開が遅れていたことの一つだけである。1980年代のポリオ大流行時には、政治的決断の、国内治験を省略して承認している。一人負け状態の人流観光業界こそが率先して政策提言するべきであるが、リーダー不在である。

## 政治家再教育

小田急電鉄(株)特別社友 利光 國夫



国会議事堂 東京都千代田区千代田

私のゴルフ仲間が政治家の再教育の必要を唱えているU君という人物がいる。彼がいうには医師、弁護士、司法書士、国家公務員などにはその資格を問う試験に合格しなければ世間で認められないのに、国政を司る国会議員は選挙に当選さえすれば通用するというのはおかしい。少なくとも憲法、民法、刑法、公職選挙法くらいについては最低限の知識の有無を調べる試験を受けさせるべきだというのが、近ごろの政治家の言動をみるにつけ私も同感である。

先日でもコロナ対策の一環として緊急事態宣言の方針に従わない飲食店で、金融機関や金融卸業者を通じて圧力をかけたいという反発を受け、慌てて撤回するという粗末な事例があったが、これなどは独占禁止法の知識があれば有り得ない事態である。担当大臣のみならず、首相以下関係政治家の誰一人事前にも国会議員の知識とはまこと目標できない有様である。

データと我が国のトップを兼ねたのは先進諸国中最多であり、議員報酬も最高額、加えて様々な手当や特権があり、それらはすべて国民の血税でつくってまかされているのだ。つらつら考えるに参議院は廃止して一院制とし、議員の数も三百人程度にすべきではないだろうか。こうすると世襲議員ばかり当選するのではないかと心配する生じるかもしれないが、それに対してはリコール制度を拡充すればよいだろう。選挙区に関係なく、全有権者がリコールに参加できればこの点は正しきでいいかと思うのである。いずれにしても現在の国会議員の無知、無教養ぶりは、これ以上放置していけば健全な議会制民主主義がいずれ崩壊への途を辿っていくことはまず間違いないであろう。

## 観光トピックス

令和3年7月26日、オンラインで開催された国連教育科学文化機関(ユネスコ)世界遺産委員会が「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島」(鹿児島、沖縄県、42.698ha)を、世界自然遺産に登録することを決めた。

また、27日には同じくオンライン開催となった第44回世界遺産委員会拡大会合において、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産一覽表への記載が決定した。これにて国内の世界遺産は合計25件、文化遺産は20件となった。

## 宿泊業における「コロナ禍現況のリアル」と未来予想図

第169回6月11日観光立国セミナー報告より

(財)宿泊施設活性化機構理事長 伊藤 泰斗

### ◆ 設立の経緯

発起者伊藤氏は、都市銀行からシンクタンクを経て監査法人系コンサルティングファームに。そこで、零細旅館から超大型ホテルまで、様々な宿泊施設の事業再生を手がけてきた。その結果、他の産業に比して宿泊業に手が足りていないのがみてきた。マーケティング・ブランディング・広報概念、付加価値を上げる(高く売る)という概念、需給に合わせて価格を調整する概念、人時生産性という効率性概念などである。宿泊業界として法令や運用の適化を図る方向に導くには、官公への業界広域機能が絶対的を必要。そこで、同業者同士のコミュニケーション以外のすべてのコミュニケーションの推進・支援を担務する新しい組織として宿泊施設活性化機構、JALFを設立した。

### ◆ 活動内容

2015年の設立後、3年半で日本最大の宿泊業界団体となり、政府と業界外への発言力も最大の高められた。第1回の日本宿泊大ボス会議での収益金を全都県地震に寄付、加えて被災民をキャンセルが多発していた周辺宿泊施設に収容するというボランティア活動を実施。民法新法制定にあたっては唯一の民間折衝窓口として取りまとめ、大目標であった旅館業法の改正を遂行。現在は複数のアセットマネジメント業務や宿泊施設を核とした地方創生実務などを行っている。

### ◆ 最大の問題は人材不足

超高齢化、少子化に伴い労働人口が著しく減少する。宿泊業の離職率は、全業種でトップ。つまり、働きやすい職場、働きやすい環境ではないところである。給与水準も全業種の中で最低。コロナ禍にあって、2020年とはとにかく現在を乗り切っていくという救済の機微。今年2021年は、アフターコロナに対して新たな戦略を構築し着実に手をうっていくという冷静な我慢。では、労働力確保の側面からみると、やれることは、1. 給与水準と勤務体系の向上、2. 自動化、AI化、ロボット化のつちかひ。今、JALFでは7つの神器を共同開発中である。

### ◆ ロボティクスの現状

1. 全自動床清掃ロボットは、主に3社から発売されており、軽量、障害物回避をして清掃作業継続、高速回転するパワープラスなどそれぞれに特徴がある。最近では床清掃ロボットを使用されている家庭も見かけるようになつた。

2. 浴室ユニット全自動洗浄システムについては、現状、自動給湯洗浄機はメーカーがすでに販売しており、今は全自動浴室洗浄機を開発試行している。浴室8階にスリッポン様式の洗浄噴射装置を設置し、浴室のドアを閉め、スタートボタンを押すと、湯で予備洗浄、洗剤噴射、脂質溶解、

最優先：宿泊業用機械等の共同開発

### JALFで研究開発中7つの神器

1. 全自動 床 清掃ロボット
2. 全自動 窓 清掃ロボット
3. 浴室ユニット全自動自律洗浄システム
4. 全自動食器洗浄システム (洗剤調整・乾燥付・乾燥機)
5. 自動搬送システムAGV (7人乗車用・車庫内専用)
6. 物品移動の軽減化・省力化
7. 顔認証&氏名照合システム (9人乗車用)

© 2016 JALF The Japan Association of Lodging Industry of JALF

汚れをすずき落し、浴室自動乾燥、完了となる。これは開発途中である。3. 全自動食器洗浄システムは、食器を未整理で挿入し、残飯を吹き飛ばし、洗浄、完全乾燥と楽期的であるが、全長15m、80dbの騒音、約2000万円強の価格と導入には少しハードルが高いシステムである。4. デリバリーロボットについてはシェラトン、マリオットなど有名ホテルチェーンがアメリカ各都市で導入しており、日本では2017年10月品川に導入開始された。

今後は「ロボットが清掃しやすい部屋」に空間設計する必要がある。しかし、どこまでをロボットに任せ、どこを人間やるべきか、それを見極める運用ノウハウが非常に重要になってくる。また、経営者にも必要だと思うことは、競争力の源泉は自前、価値の源泉でない業務を外注するといふ認識と、従業員も誰かが止めたら絶対に補充できない、現従業員はすべてでも長く使ってもらふ必要があるという認識である。コロナ終息後インバウンドは必ず再興するだろう。「役に立つ」ものは「金銭的価値がない」世の中へ、「意味を与える」ことを考えない事業として成り立たない時代に突入している。人間と新しい技術の共存・共創が加速した今、改めて宿泊施設の新し加価値について考え直す時である。

## 第171回 観光立国セミナー開催のお知らせ

9月17日(金)12:00より開催いたします(注:第3金曜日)

◆ 要事前予約 ◆

会場: MFPR 渋谷ビル (株)JPMIM 4F会議室

講師: 北畑 隆生氏

(元経済産業省事務次官・神戸製鋼取締役)

演題: スポーツと観光・地域振興

「鹿島アントラーズ誕生物語」

参加費: 会員/1,000円 一般/2,000円

※昼食(弁当)付き

## 兼高かおる賞



正賞のフェネチアングラス・トロフィー。三編りつ兼高かおる賞「VITALE」(イタリア語で活力の意味)で兼高さんのイメージを思い描き「活力」を表現した

正賞を持ち喜ぶのヤマザキ・マリさん=2021年6月、東京・経団連会館で

海外旅行ブームの先駆者ジャーナリスト、故・兼高かおるさんの業績を称える「兼高かおる賞」の第1回受賞者に漫画家、文筆家のヤマザキ・マリさんが選ばれた。世界早回り記録保持者だった兼高さんのチャレンジ精神、好奇心などのイメージに重なる人柄や業績を認められたヤマザキさん。企画・行動力、表現力、気品、我慢強さ、プロ根性、茶目っ気、ユーモアといった要素も選定の基準で、第2第3の兼高さんになる可能性のある人の発掘も狙った。日本旅行作家協会(JTWO)と日本旅行業協会、兼高かおる基金の共催。JTWO内に同賞実行委員会を設け、旅に関連し国際貢献に尽くす日本人、団体、放送番組、イベント企画などから一次選考で29名をノミネートし1年間にわたり検討を重ねて絞り込んだ。

## ヤマザキさん——14歳で独仏ひとり旅

第1回に受賞したヤマザキさんは14歳の時にドイツとフランスへ母の友人を訪ねて1カ月のひとり旅。17歳でイタリアに渡り、フィレンツェの国立アカデミア美術学院で油絵・美術史を専攻。若いころから海外生活を経験し、国際感覚を自然と身につけた。エジプト、シリア、ボリビア、アメリカなどの国々に在住。イタリア暮らしを綴ったエッセー漫画でデビューした。北海道にも住み、地元札幌テレビ(STV)の番組「どさんこワイド」で旅行・温泉のレポートを担当。ラジオのパーソナリティも務めるなど活躍の場を広げた。ヤマザキさんの母・山崎量子さんはヴィオラ奏者で、北海道に拠点を置く札幌交響楽団の創設時から団員で、近年は後進の指導に努める。マリさんの著書「ヴィオラ母さん」は自由奔放な母娘の日々を綴る抱腹経典の書だ。

多くの文筆著作をイタリアと日本から発信し、TV番組のコメンテーターとして活動する。古代ローマの浴場から現代日本の風呂へタイムスリップする漫画「テルマエロ

マエ」で2010年に第3回マンガ大賞と第14回手塚治虫文化賞短編賞を受賞。15年度芸術選奨文部科学大臣賞新人賞受賞。17年には文化貢献でイタリア共和国の星勲章コマンドトールを受章。兼高さんと生前ご縁もあり、兼高著「わたくしが旅から学んだこと」で解説を書いたり対談したり、このたびの授賞式の挨拶で「子どもをこの兼高かおる世界の旅を見るのが毎週楽しみで、地球全体が私達の住人なんだと見せてくれた、私を作ってくれた大事な人です」。

## 兼高さん——世界早回り73時間9分新記録

2年前に90歳で亡くなった兼高さんは1958年生まれ1周73時間9分の新記録で一語話題になり、生涯157余りの国々取材した。海外旅行者が年間10万人にも満たないころ59年にTBS系TV番組「兼高かおる世界の旅」が始まり30年以上も続いた。スペインの画家サルバドール・F・ケネディ大統領を訪問したり、日本人女性として初めて南極(71年)、アフリカ・チャドのボロロ族や中国・新疆ウイグル自治区のカザフ族の女性たちと交流したり、フィリピン・セブ島の祭りで王妃の衣装で神輿に乗って楽しんだり。英ウエールズでチャールズ皇太子にも会った。番組を終えた後も世界各地を巡り2008年にはキューバを訪ねた。躍動する彼女に憧れ、旅行業界のリーダーや作家、文化人をめざした人びとは少なくない。JTWOで斎藤茂太・創立会長のあとを継ぎ二代目会長になり、さらに名誉会長となった。同協会は優れた紀行作



居酒屋デギータでモヒートを作る兼高さん=2008年、キューバ・ハバナで

文・写真 林 莊祐

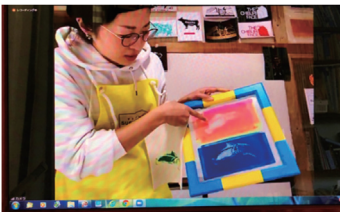
## メディアから見た旅の変遷「旅は世にけれ」その(二)

旅行ジャーナリスト 香掛 博光

前回述べたようにオンラインツアーは移動できない状況になって旅行したいと望む人と旅行地をオンラインで結ぶ、コロナ禍の中で生まれた旅の楽しみ方である。リアルな旅と比べれば大きな違いはあるが、その一方でライブ動画は喜んで現地の人と交流したり興味深い話を、場合によってはマンツーマンで聞けたりなど実際のツアーとはひと味違う体験が楽しめる。

私の隠岐諸島や沖縄の離島についてのオンラインツアーを紹介した記事に対して、「単なる映像鑑賞だと思っていたら、ライブ感があって濃密な交流ができるのを知って驚いた。老いて自由が聞かない私でも世界中を巡れそう」とコメントを寄せてくれた年配の方がおられた。

自分は移動しないということで、身体の不自由な方長時間の移動が難しい方などにも喜ばれているようで、隠岐諸島のツアー(主催は島根県)をコーディネートした隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会の話では、2年前に全国の特別支援学校の生徒を対象にオンラインツアーを実施したところ大変喜ばれ、「これも隠岐を巡るひとつのツアーだと気づきました」という。そうした体験が今回のオンラインツアーの企画につながったのだろう。



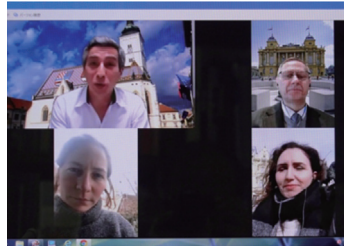
隠岐諸島・加太里大島の手作り工房—筆者撮影

また、このオンラインツアーを運営した地元の旅行会社はすでに昨年から15回程実施した実績を持つが、ツアーへの参加者の声を聞くと、「98%の人が、次はぜひ実際に行ってみたい」と答えたという。オンラインツアーが旅行地選びの有効な手段であることを示唆しているようだ。

沖縄県の離島ツアー(主催は沖縄県)でも、アンケート結果を見ると、「とても満足」が76%、「離島へ訪れたい」が78%と新型コロナウイルスの収束後の旅行PRに貢献していることが窺える。沖縄県の離島というディスティネーションのせいか、参加者は20～40代的女性が多かったが、このほか、60、70代の方もおり、幅広い層が参加している。1人でも気軽に参加できるのもオンラインツアーの特色のひとつと言える。

沖縄県ではこうした結果を踏まえ、コロナ後も修学旅行の事前学習や介護施設でのレク活動との提携など様々な

活用を検討したいと語っていた。



クロアチアの首都ザグレブの町歩きでは駐日大使も参加—筆者撮影

さらに、クロアチアの首都ザグレブの町歩きオンラインツアー(クロアチア・ハートフルセンター主催)では、駐日クロアチア大使館のドラジェン・フラステッチ大使も参加。ザグレブ市民の休日を楽しむ方や学生時代の思い出など語り、これに現地のガイドさんも加わり、日本の参加者がチャットで交流するなど遠いザグレブが身近に感じられるやりとりが続いた。オンラインツアーならではの楽しみ方もない。ツアー後のアンケートに、「満足した」が50%、「大変満足」が1%とあり、満足している人が多い印象を受けた。また、事前に当地のワインを送ってもらい、そのワインを味わいながらゆかりのワイナリーをオンラインで訪ねるツアーには50%の人が関心を寄せていた。こうした特産品を購入してのオンラインツアーは国内でも行われているが、軌道にはば観光地でお土産を購入したり食事をしたりするのと同様に地域への経済貢献をもたらすメリットもある。



オンラインツアーではライブ配信と併せて、ビデオ映像も状況に応じて変われる—筆者撮影

コロナ禍という異日常を強いられられている中で、異日常の世界とも言われる観光をオンラインに任せて居ながらにして楽しむようになってきた。これからは様々な理由で旅に出られぬ人もオンラインツアーによって見知らぬ土地や憧れの地を知り、そこに暮らす人達とライブによって交わることも可能になったと言えるだろう。新しい旅の世界がまた、一つ広がる。「旅は世にけれ」と、その形も楽しみ方も色々に変わることを教えてくれたというようだ。